

● 事例 ●

名古屋学院大学におけるキャリア形成・就職支援体制

三井 哲

(名古屋学院大学商学部教授／キャリアセンター長)

本学では、二〇〇一年度に就職部をキャリアセンターに改組し、就職指導及び斡旋が中心であった就職支援から、低学年次から就職に対する意識向上とキャリアアップを図ることを含めた総合的な就職支援を実施するようにした。

「キャリアデザイン」「インターンシップ・プログラム」「資格講座・就職対策講座」により構成されるキャリア形成支援プログラムがその中心である。このキャリア形成支援プログラムは大別すると、「キャリアデザイン」に代表される正課授業と、資格講座・就職対策講座や学生支援GPの採択に伴って実現した「自分発見ノート」「キャリアデザインカルテ(CDK)」などの各種プログラムの二本柱か

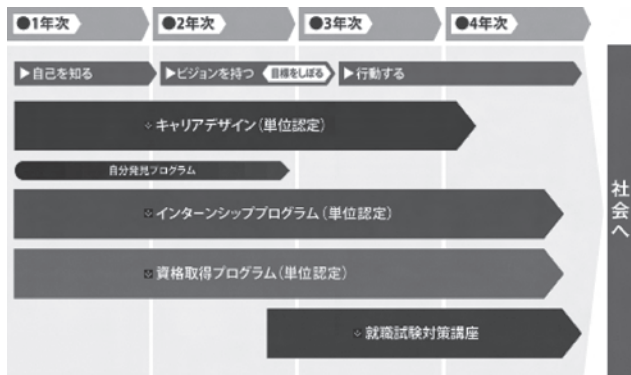
ら成り立っている。以下では、本学の特徴的なプログラムであるキャリアデザインを中心に、本学のキャリア形成支援の状況を紹介することにした。

一．キャリアデザイン

図は本学における学年進行に対応したキャリア形成支援の体系を示したもので、正課授業の「キャリアデザイン」及び、インターンシップほか正課外の各種プログラムによって本学の「キャリア形成支援」が構成されている。

また、二〇〇七年度学生支援GPに選定された「自分発

(図) キャリア形成支援プログラム



見型学生支援ネットの構築に向けて」は、このキャリアデザインを軸に、各種のプロジェクトを展開する形になっており、その意味でもキャリアデザインは本学における学生支援ネットワークを支える重要な基盤になっている。

キャリアデザインは、学部教育課程の正規授業科目として配置し、一年次から三年次までの六 semestre にわたる構成となっている。経済・商・外国語学部では、必修ではないものの全員が履修するように、他の講義科目となるべく重ならないようにするなど時間割上の配慮をした。講義は、本講座のために新たに採用した専任教員が主に担当し、三年間を通して、段階的にキャリア形成に向けた意識を涵養することを目指し、また、具体的な就職対策の準備までを扱っている(表参照)。

このキャリアデザインの授業を通じて具体化した学生のキャリアに対する志向などの情報は、後述の基礎セミナーを担当するクラスアドバイザー(基礎セミナーの担当教員)やキャリアセンターと共有され、必要に応じて、各学生の志向に応じた資格講座やインターンシップに関する情報を発信して、参加を促していく体制ができています。

クラスアドバイザーは、定期的にキャリア形成に関する個人面談を行い、その結果をCDK(キャリアデザインカルテ)に、クラスアドバイザーからのアドバイスという形で記録していく。このように、「キャリアデザイン」における学修を軸として、クラスアドバイザーとキャリアセンターが相互に連携して、学生一人ひとりの志向に合ったき

(表) キャリアデザインで扱う主要テーマ

<p><キャリアデザイン1 a・1 b (1年次)> 自分の強みや課題、価値観を明らかにして自己理解に取組み、自らを見つめることで、大学で学ぶことの意義や社会に出るための基礎知識の習得を行いながら将来ビジョンを構想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職業について考える ・キャリアと企業について ・キャリアデザインと大学生活 ・社会で求められる力とは 		<ul style="list-style-type: none"> ・社会のトレンドを知る ・自分の過去・現在・未来 ・自分の適性能をチェックする ・常識力アップ
<p><キャリアデザイン2 a・2 b (2年次)> 働くことの意義を認識し、コミュニケーション能力や常識力などの社会で求められる基本能力を養い、自己実現の方向性を明確にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会の中で求められる能力 ・ビジネスマナーを学ぶ ・私ブランドづくり 		<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションスキルを高める ・大学生に求められる常識力とは ・就職に必要な基礎学力
<p><キャリアデザイン3 a・3 b (3年次)> 学部教育で学んだことを社会において自ら実現していく手段について考えるとともに、現実の就職活動を実践するためのノウハウを吸収する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SPI万全の対策法を学ぶ ・自己分析(自分の売りをみつける) ・履歴書・エントリーシートの作成 ・面接対策 		<ul style="list-style-type: none"> ・業界・業種の分析・研究をする ・直前チェック

めの細かいキャリア形成支援をすすめている。

二. 自分発見ノート

(一) 導入教育と共通テキスト

キャリアアセンターが発足した頃から、本学においてもメディアル教育の必要性が議論されるようになった。また、この頃から退学・離籍者の増加が目立ち始めたが、退学を申し出た学生に、その理由を尋ねたところ、「友達ができない」という理由が大きな割合を占めていた。こうした問題に対応する試みとして、各学部では、基礎ゼミ、教養演習と名称は異なるが、基本的には学生が不安を持たずに大学生活を楽しめるようになることを目標に、一クラス一五人前後で開講する導入教育を開始した(一〇年度より、全学部で「基礎ゼミナー」と講座名を統一したので、以下では基礎ゼミナーと表記する)。

やがて、導入教育用の共通テキストを作成してほしいという要望が強まったことから、〇六年に「共通テキスト」作成委員会が立ち上げられ、教案例を検討したが、共通テキスト作成委員会委員の中にも、共通テキストで内容を完全にしぼりつけることを嫌う委員もあり、最終的には、①

建学の精神、②大学で学んで欲しいこと、③本学の施設・機能の説明、④キャリアアップ、⑤友達作りの五点については必ず触れるということで決着し、学長が「〇七年からの基礎セミナーでは、一五週の最初の五週で、必ずこれらをテーマにして授業を進めて欲しい」と要望することで意思の統一を図った。

(二) 自分発見ノート

五項目の必修テーマを含む基礎セミナーが始まった〇七年に、前述の自分発見型学生支援ネットの構築が学生支援GPに採択されることになるが、このプロジェクトの中に、「自分発見ノート」がある。

自分発見ノートは基本的にはキャリアデザイン1、2の副読本として使用するように編集、作成されたが、共通テキストに求められた五つのテーマを取り上げたページもあり、基礎セミナーの副読本としても使用している。

キャリアデザインは原則全員履修としたため、教員や教室数の制約から、学生数が二〇〇人程度になるクラスもある。このような状態では、授業中に学生一人一人にきめ細かい対応することは難しいため、個別の対応が必要なテーマについては、基礎セミナーでフォローすることにしてい

る。

たとえば、一年次用の自分発見ノートには、「大学生活の目標と計画を立てる」という項目がある。ここでは、自分の強みなどを再確認し、これを生かした仕事につくために必要な大学生活を通しての目標や、実現すべきテーマを書き出していく作業をすることになっている。しかし、キャリアデザインの時間内にこれを完全なものにすることはできないため、六月上旬にキャリアデザインの時間にテーマの趣旨、作業の概要を説明した上で、基礎セミナーの時間に、学生に作業を完成させ、さらに学生一人一人に対してクラスアドバイザーがその記入内容をもとに面談し、学生生活についてアドバイスすることになっている。また、アドバイスの内容などについては、後述のCCS内にあるキャリアデザインカルテ(以下CDK)に記入し、学生を励ましたり、以後の面談時の資料として利用することになる。

(三) CCSとCDK

キャリアアセンターでは、従来から三年生の秋に就職希望者に、「進路(就職)登録カード」を提出させ、これをベースに就活をサポートしてきた。仮にCDKを紙ベースで

運用すると、カードの利用者が一年生まで広がるため、約五〇〇枚のカードの管理が必要になり、管理や収納面で取捨がつかなくなる事が予想された。そこで、電子媒体による管理が不可避という事になったが、本学では、〇三年に全面的に導入されたキャンパスコミュニケーションシステム（以下CCS）という基盤があったため、GPに採択されたことで、比較的スムーズに実現することができた。

CCSは、学生・教員・事務局の三者を情報ネットワークで結んだもので、休講・補講・教室変更通知などの情報伝達や、コンピュータ上で問題を繰り返し解いて学習することができると、自学自習システムなど学生の学習指導に用いられているほか、シラバスや成績の入力、出欠管理など教員のあらゆる場面で利用されている。

CCSのキャリア・就職のページの中に、CDKの項目があり、前述の「大学生活の目標と計画」についての取り組み状況などを更新したものが表示されている。また、教員やキャリアセンターからのアドバイス、インターンシップの記録、資格試験の受講状況、合格状況などを参照することができる。

多くの学生が三年次に加入する専門ゼミの担当教員と、一年次のクラスアドバイザーとは異なっているが、このC

DKを通じて、専門ゼミの担当教員やキャリアセンター職員は、学生の一年次からの努力の積み重ね状況や、職業に対する考え方の変化などをみることができ、それに合わせた、様々なアドバイスを可能にしている。

三. その他の支援策

(一) GP関連

〇七年にGP採択されたこれらの学生支援策は、主に一、二年生を対象としたプログラムである。〇九年度の大
学教育・学生支援事業では、CCS上で就職活動に関する記録・メモを入力できる日記機能や教員及びキャリアセンターからのアドバイスを受け取るなどの機能を持つ就活日記システムの導入が実現し、これによって、三、四年生の就活を支援する仕組みも充実した。

GP関連では、このほかに、正課外の講座として、「コミュニケーションスキル講座」「ビジネス文章スキル講座」「数理力マスター講座」など「自分の人間力を磨く」コース、「自分のキャリア・プランニング」コースなどをもった自分発見プログラムを提供しているほか、一年次春学期のキャリアデザインについて来られなかった学生や、それでは

特集・就職支援～学生の職業意識の醸成～

満足できない学生に対して夏休みに合宿方式で実施する特別プログラムの自分発見キャンプなどがある。

(二) インターンシップ、資格講座・就職対策講座

インターンシップは、受け入れ先の開拓等に積極的に取り組んできた経緯もあり、在学生数に比し、参加する学生の比率が高いとされている。応募した学生には、派遣先が決まると、その企業、業界に関するレポートを作成させ、それを持ち寄っての発表会、マナー講習などの事前学習、

一〇日間(二週間)のインターンシップ終了後の事後学習に参加することを義務づけており、この全課程を修了した学生には二単位を付与している。

単位取得を目的にインターンシップに参加を希望する学生の存在は否定できないが、一方で、受入企業側の都合で一週間しか実習期間がなく、単位が取得できないことがわかっていても、積極的に応募してくる学生や、単位の対象にならない三回目のインターンシップに参加する学生もあり、インターンシップの本来の趣旨が学生によく理解されていると判断している。

資格講座・就職対策講座は「在学中に資格を取って、有利に就活を進めたい」という学生のニーズに応えるために

開設しており、〇九年度は二七講座を開講し、延べ一〇九〇名が受講している。資格講座・就職対策講座はこれまでキャリアセンターが対応してきたが、一〇年度に資格センターを新設したことに伴い、業務を新センターに移管した。

おわりに

就職決定者の比率は長い間、全国平均を上回る水準で推移してきたが、〇九年度はわずかながら平均を下回る結果となってしまった。四年の春の早い時期に受験に失敗して自信を喪失し、そのまま就活を停止してしまった学生が少なからずいたことも一因として考えられる。支援システムが充実しても、アクセスされなくては効果は出てこない。こうした学生への働きかけをさらに強めていくことも次の課題となつてこよう。